

平成 29 年 6 月 2 日（金）

報道発表資料

PCB 含有蛍光灯安定器の破裂事故の発生について

西南女学院大学短期大学部実習室内で、高濃度 PCB 含有蛍光灯安定器 1 個が破裂し、少量の PCB 油が漏れ出る事故が発生したとの報告が、本日、市にあった。

市は、直ちに立入検査を行い、本事故による汚染の状況把握、汚染物の処理等について適切に行っていることを確認した。

また、今回破裂事故を起こした PCB 含有蛍光灯安定器は、市の把握外のものであったため、当該施設での PCB 含有機器の有無について全数調査を行うよう指導した。

なお、PCB の周辺環境への漏洩や人員の健康への影響については、現時点では確認されていない。

<事故の状況>

1 発生日時

平成 29 年 5 月 30 日（火）14 時頃

2 場 所

小倉北区井堀 1 丁目 3 番 2 号

西南女学院大学短期大学部 2 号館 4 階実習室内

3 状 況

○ 5 月 30 日（火）

- ・実習室内で使用中の蛍光灯安定器（昭和 44 年製）1 個が突然破裂
- ・漏洩した油をウェス等で拭き取り、そのウェス等は厳重に保管

○ 5 月 31 日（水）～ 6 月 1 日（木）

- ・安定器製造メーカーに問い合わせし（5 月 31 日）、型番から高濃度 PCB 含有機器であることを西南女学院大学短期大学部にて確認（6 月 1 日）

○ 6 月 2 日（金）

- ・西南女学院大学短期大学部から本市に通報・報告（10 時半頃）
- ・本市の立入検査、実習室外への漏洩がないことを確認（12 時頃）

4 西南女学院大学短期大学部問い合わせ先

学校法人西南女学院総務課（担当：小笠）093－583－5033

（以上）

■蛍光灯の安定器が破裂

北九州市は2日、小倉北区にある西南女学院短大の実習室内で5月末、高濃度のポリ塩化ビフェニール（PCB）を含む蛍光灯安定器1個が破損したと発表した。けが人や実習室外への流出はなかった。

市によると、5月30日午後2時ごろ、蛍光灯の安定器が突然破裂した。当時、実習室内には教員や学生計12人がいたという。

安定器は1969年製。メーカーに問い合わせた上で高濃度PCBを含むことがわかり、大学側が2日、市に報告した。市は大学側に同種の安定器がないか調べるよう指導した。

蛍光灯安定器破裂 PCB少量漏れる

西南女学院短大

西南女学院大短期大学部（小倉北区井堀）は2日、実習室で蛍光灯安定器が破裂し、毒性のある高濃度ポリ塩化ビフェニール（PCB）を含んだ油が数滴漏れ出たと発表した。健康被害は確認されていない。

5月30日午後2時ごろ、

教壇近くの天井の蛍光灯から油が落ちたのに教員が気付いた。焦げ臭いにおいが立ちこめたこともあり、学生10人を別の教室に移動させ、学校関係者が油を拭き取った。安定器は1969年製で老朽化が原因とみられる。

PCBを含む製品は現在、廃棄や無害化が義務付けられ、同短期大学部が2000年に全備品のチェックを業者に依頼した際、見過こされていたという。

◆蛍光灯が破裂しPCB漏出

北九州市は2日、西南女学院大短期大学部（小倉北区井堀1）の実習室で5月30日午後2時頃、蛍光灯の電流を調整する安定器1個が破裂し、高濃度の有害物質・ポリ塩化ビフェニール（PCB）を含む油が漏れ出す事故があったと発表した。健康被害は出ていないという。市などによると、事故当時は授業中で、実習室には2年生10人と女性教員2人がいたが、体などへの付着はなかった。安定器は1969年製で、老朽化が原因とみられるという。